

宮川議員、岡田議員が聞く

東広島市の防災

表紙写真／話をお聞きした皆さん

今回は、地域の防災活動にご尽力されている皆さんに、「東広島市の防災」をテーマにインタビューをしてきました。

近年頻発する災害に対して、地域において防災に取り組むことが急務となっています。

そこで、次の5名の方々に、防災に対する現状と課題、今後の展望についてお話をお聞きしました。

プロフィール



東広島市消防団
副団長
うまが 道弘さん



東広島市消防団
団長
かわさき 徳之さん



木谷自主防災組織
防災安全部部长
ながお 准司さん



You愛sunこうち
総務企画部長
わたなべ 信幸さん



鴨ヶ池団地
自主防災防犯会会長
おりはし 誠さん

災害はいつ起きるかわからない。

常に備えよ！

Q 主な活動状況をお聞かせください。

川崎 昨年は、火災・水害・行方不明者の捜索等で921人出動しました。また、規律訓練・ポンプ操法訓練・放水訓練等の各種訓練、啓発活動・イベントの交

通整理等の地域行事の協力、年末特別警戒や消防出初式等を行っています。

渡橋 土砂災害の危険地域ということで、いの一に独自の防災マップを作ったのがスタートです。それ以来、特に土砂災害が

想定される地域で緊急連絡網を作ったの訓練など行っています。

渡辺 年2回、地域での防災訓練をしており、毎回70〜90名の参加があります。また、防災無線が撤去されたことから、昨年度はじめに、早め早めの情報伝

達手段として、独自の連絡メー
ルを立ち上げ、災害情報や葬儀
情報などを配信しています。

Q 活動上の課題や不安なことがあればお聞かせください

長尾 木谷地域は自主防災ができて5年になりますが、防災意識が芽吹いたとはいえ、まだ低いように思えます。安芸津は気候温暖で滅多に災害もありませんから、安全な地域だという考えが根付いているんです。普段からの地域行事の参加や声掛け



①



②



③

- ①：消防局防災センター
- ②：you 愛 sun こうちでの防災訓練の様子
- ③：インタビューを受ける皆さん
- ④：総合防災訓練
- ⑤：消防団の出初式



④



⑤

などでコミュニケーションをはかり、防災意識を高めるのが最大の課題だと思っています。

渡辺 少子高齢化が最大の課題です。河内の高齢者は43%を超えています。支援者も高齢者になっています。

植田 団員確保が最重要課題になっています。人口密集地では人はいるが活動に対する理解者が少ない。周辺地域では意識は高いが若者がいません。

また、要支援者を避難させることに関して、個人情報保護が壁になって情報が伝わりにくい状況です。

Q 今後の活動方針、地域の安心づくりの将来展望をお聞かせください。

川崎 訓練等を通して災害対応能力を高めていきたい。同時に、自主防災組織の皆さんと連携して自助・共助の観点から地域防災を充実強化していきたいと思っています。

渡橋 継続が大切だと思っています。防災訓練をしても、セミナー的な訓練では実際役に立ちません。危機感を持ってやり

たいと思います。

Q 最後に一言。

長尾 防災は、あまり難しく考えず、生活の中に取り込んでもらうことが大切だと思います。

渡辺 河内は急傾斜地が多いため、水の災害が心配です。早期に情報入手し、適切に発信することにより減災を目指します。また、過去2度の大火の経験から防火についても忘れないようにしたいと思います。

渡橋 「備えていないことはできない」と言われます。日ごろから各家庭で備えていただけるように啓発していきたいです。

植田 地域住民の皆さんには、住んでいる地域のことを何か一つでも関わってお手伝いしてもらいたいと思います。そうすれば、地域の連携がとれてうまくいくんじゃないかと思っています。

川崎 災害はいつ何時起きるかわかりません。やはり、「常に備えよ」だと思います。あくまでも想定外をなくし、普段から備えていきたいと思っています。